

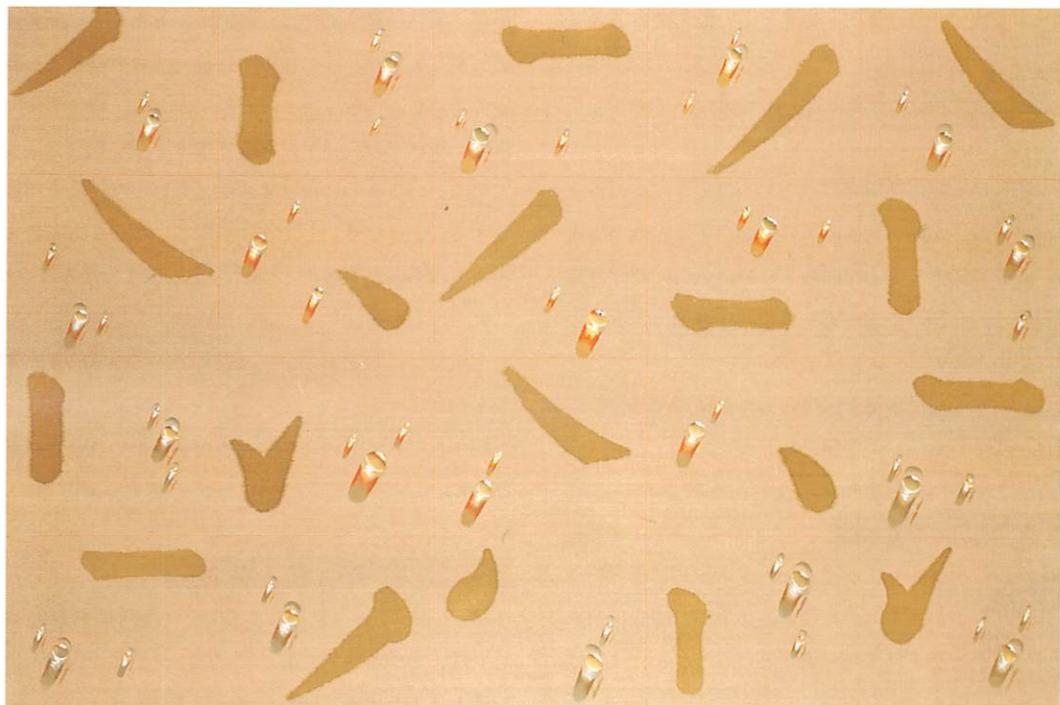


会報

第21号

平成4年9月

社団
法人 北海道美術館協力会
札幌市中央区北1条西17丁目 電話011-644-4025



北海道立函館美術館蔵

新収蔵作品 金 昌烈「水滴(解体)」

当館の収集方針の一つである「文字・記号」に関する作品。

金昌烈は1929年にソウルに生まれ、ソウル国立美術大学で学んだ後、ニューヨークで版画を学ぶ。写実的な手法で水滴を描き、「水滴の画家」として知られている。彼の描く水滴は、情緒や主觀が排除された透徹な「かたち」を持つ。

「水滴(解体)」では、その水滴の向こうに漢字を分解した線が見られる。本来の意味性を失った文字の断片は、東洋的で凜とした雰囲気を伝えている。ニューヨークで学び、パリで活躍する彼は、西洋と東洋の美術の根本的な相違を感じたと言う。ここには、作者のめざす「痛みを癒し、記憶を消す東洋の山水画」の世界が表れているといえよう。

明日にむけての協力会を語る

北海道美術館協力会は本年創立15周年を迎えました。この機会に、協力会は今後どうあつたらいいのか、またどう進んでいったらいいのか。この大きな課題に取り組む糸口として小林敦子会員が佐藤専務に話を伺いました。



はかばかしくない美術振興基金

小林 小人数で任意団体として発足した協力会は、今会員約1,500人の社団法人として基礎を固めたわけですが、この過程の中で残した軌跡に対する評価はどうなのでしょう。

佐藤 これは一概には言えないかもしれません、ボランティアの皆さんの活動、絵画の寄贈、美術館への事業協力、美術に関する関心を高めるための会員に対する無料観覧など、各種の事業の実施は大いに評価できることではないかと思います。

ただ、設立当初億単位を目標とした美術振興基金の造成ははかばかしくないような気がします。

目標には遠すぎる現状



小林 お話に出ました美術振興基金というのがよく解からないのですが、造成目的や方法・目標額・現状といったことについて伺えますか。

佐藤 この基金は本来、その運用益で必要な事業を行うということを目的としています。協力会の場合の事業としてはすぐれた美術品を購入して美術館に寄付するとか、美術家育成のための顕賞や援助をするとかが考えられます。これらの造成方法はいろいろあると思いますが現在は一定の余剰金を積み立ててきています。明確な目標額をここで掲げることはできませんが少なくとも億単位ということになるでしょう。現在は17,000千円程度の積立となっております。

欲しい！強力な助っ人

小林 現状の積立額では、目標とするところに随分遠い感じがしますが、それに近付ける方法などは考えられないですか。

佐藤 現状では会員を拡大して出来るだけ積立を増やしていくということになりますが、これでは相当の年数を要することになるでしょう。飛躍的になるかもしれません行政や各企業等にご理解ご協力を得られるならば、これらの資金を元にして今の社団法人を財團法人に変更し運用益による運営ということも考えてみる必要があるかもしれません。

いずれにしても強力な助っ人が必要ということになりますね。

ボランティア活動の充実・拡大

小林 「メセナ」（企業による文化支援活動）が高い関心を呼んでいる時もありますので、企業の理解・協力を得ることが出来ればいいですね。今後は、そういったことを志向しながら努力いただければと思います。現状の財政規模と申しますか、そんな中でのビジョンといったものはないのでしょうか。例えばボランティア活動の拡充とか……。

佐藤 現状のボランティア部員には大変ご苦労をかけ活動な活動をしてもらっているところで高い評価をうけているところです。しかし、これで十分かというと、まだまだ充実・拡大していく部分はあるでしょうし、そのための要員養成や円滑な運営システムの検討なども必要になるでしょう。また、多くのボランティア希望者の養成、受け入れといったことも併せて考えていかなければ

ばなりません。

今後の重要課題は独自活動

小林 協力会のボランティアは3部門で活動していると聞いてますが、部門ごとの展望というとどんなことが考えられるのでしょうか。

佐藤 ボランティアの活動は売店、解説、資料の各部門に別れていますが、単に美術館業務の手伝いではなく自立的な活動団体である協力会の組織活動として、もっと独自的な活動にまで発展していってもいいのではないかと考えています。

売店部門でいいますと美術関連商品の外販活動とか、解説部門でいいますと館外活動とか、資料部門でいうと独自の資料ライブラリーの設置とかがあげられるのではないでしょうか。いずれにしても、基本的な構想をもとにしてボランティア部員とよく相談していかなければならぬと思います。

望まれる活動環境の条件整備

小林 私どもは、ともすると表面ばかりに目が捕らわれてしまいますが、あまり目につかない部分での今後の課題といったものはあるのでしょうか。



佐藤 これは、まさに活動の支えになっている部分ですから土台ともいべき事柄で、その基盤はきちんと整備していかなければならないでしょう。

ボランティアの表面的な活動は、日頃の絶え間ない研修の集積によるものですし、運営自体にも多くの時間・労力をかけています。そういった地道な活動の場は美術館の一部施設を融通してもらっています。休憩の場も同じです。また、事務局も施設の一部を仕切って借用している状態です。これらは、はじめから予定されていたものではありませんので必ずしも良好な環境とは言えません。

自由に集まって会合ができる環境のいいスペースなどは、常に要望されているところですし、小会議が出来る程度の事務室なんかも必要ではないかと考えております。活動を長く持続させるためには、あまりに近視眼的ではなく長い目でみた環境整備というのも大切なことと言え

ます。

その実現には、相応の財政基盤確立が必要になってきます。

前提は財政基盤の確立

小林 活動環境の条件整備というと、いろいろお金もかかることでしょう。一方では活動を拡大充実する経費や積立という問題もある。そういったなかで相応の財政基盤というものはどの程度のものをさすのでしょうか。

佐藤 活動環境の整備となりますと、施設設備の改善や業務増に伴う人的拡充ということがあげられると思います。事務室や会議室を賃借するにしても、有給職員の増にしても相当の経費が必要になります。そのために事業を削るわけにもいきませんので収入増が必要になります。

この財源をどこに求めるかということになりますと現状では会員会費の増収とか売店売上による増収とかとなるわけです。

概数で申しますと会員数が現在の2倍、個人会員3,000人、法人会員300社程度に増えて、その数が安定すると前向きの条件整備も可能かと思います。

会員にとって魅力ある協力会に

小林 私どもは今、心の豊かさを求める美術に関心のある方は協力会の会員になっているのだと思います。美術館に協力することが会員やその他の方々に還元されていくのは大変結構なことだと思いますが、一方で会員に直接還元される部分についても今後ご配慮いただければと考えます。

佐藤 ご尤もなことだと思います。単に美術館に協力するというだけでなく、会員の方々にとって魅力ある協力会でなければならないと思っております。会員証による美術展の無料観覧・美術館情報の配付・協力会事業参加や売店の優遇措置など継続していくほか会員の皆さんに喜ばれるものを検討していく時期にきていると考えております。

小林 いろいろ伺わせてもらい有難うございました。ますますのご活躍をお祈りします。

佐藤 本日はどうも有難うございました。

.....美術館ニュース

北海道立近代美術館

10月10日（土）から11月15日（日）まで特別展「蝦夷の風俗画—小玉貞良から平澤屏山まで」を開催します。

北海道が蝦夷とよばれた江戸時代、アイヌ風俗は幕府をはじめ多くの人々の関心を集め、道南地方を中心にアイヌの人々を描いた絵画がさかんに制作されました。その中には江戸時代のさまざまな画法を取り入れつつ独自の個性的表現を見せる作品や、詳細な記録画として写生的描写にすぐれた作品など、美術的にも注目すべき作品が数多く含まれています。

本展は、江戸中期の風俗画家小玉貞良、幕末にたびたび来道してアイヌ風俗の記録画を描いた村上島之介、また明治初期にかけてアイヌの人々と生活をともにしながら独自の風俗画を描いた平澤屏山など、12作家60点の作品を一堂に集め、蝦夷の風俗画に初めて美術史的観点からスポットを当てようとするものです。

続いて11月21日（土）から12月22日（火）まで「北海道・今日の美術 10人の原自然—胎動の森・脈打つ水」を開催します。

北海道美術の現況をさまざまな視点からとらえる本シリーズも3回目を迎えます。今回は近年関心の高まりつつある（自然）をテーマに、道内出身の作家10人による油彩画、版画、彫刻、染織、写真など多様なジャンルにわたる斬新な造形を紹介します。

（これくしょん・ぎゃらりい）では、11月15日（日）まで「北のイメージ学—風土と造形」を開催中です。

北海道の美術は明治以降、その活動が本格化しますが、大正から昭和にかけては風土に対する自覚が顕著になり、しだいに北海道独自の個性的な美術表現が生み出されてきます。

本展は、氷雪や原始の森といった北海道のもつさまざまなイメージの表現を通して、その背後にある精神風土や世界観を探ろうとするものです。

11月20日（金）からは伝統的な表装形式による近代日本の美とこころを探る「回想の装飾美—屏風と掛幅の世界」と「現代のヴィジョン—タナストと彼岸」を開催します。



小玉貞良「アイヌ盛装図」
財団法人稽古館蔵

北海道立旭川美術館

10月3日（土）から11月3日（火）までは、

「生誕100年記念 木内克のすべて—生命とロマンの交響—」を開催します。木内克（1892～1977）は、水戸に生まれ、戦後の日本の彫刻界に大きな足跡を残しました。とりわけ、滞仏15年間のあいだに習得したテラコッタ（素焼き）による彼の彫刻作品は、ブロンズや石膏像が主流の日本の彫刻界に、新しい風を吹き込みました。1970年には旭川市が創設した中原悌二郎賞の第1回受賞者となり、89年には、遺作の原型83点が旭川市に寄贈されるなど、当地にゆかりの深い作家であります。

本展は彫刻、陶芸などによる立体126点にあわせ、素描や版画など62点、全188点による木内芸術の全貌を紹介するものです。

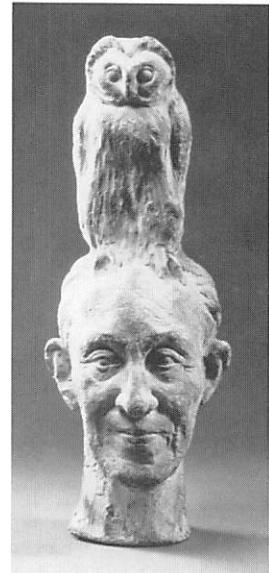
11月14日～12月20日までは、「はこで考える—あそびの木箱1992～93」展を開催します。旭川美術館では、開館以来、木の造形作品の収集を進め、これまでに「木の美—伝統の日本」「木のニューウエーブ」など木をテーマにした多彩な展覧会を行ってきました。

「あそびの木箱」の第1回展は、1981年に道立近代美術館で開催され、これをうけるかたちで1987年に第2回展が旭川美術館で開催されました。本展はその第3回展にあたります。

この展覧会の出品作は、「ものを収納するという機能を最少必要条件とし」「創る楽しさ、見る楽しさ、使う楽しさを考慮した自由な発想による」あそび心をもった「箱」という規約に基づき制作されます。昨年11月の作家選定委員会において、作家が選出され、現在51名の出品が予定されています。

洋の東西を問わず、「箱」は、家具や工芸品として、昔から人々の生活の近辺にありました。弁当箱、小物入れ、貯金箱、などをあればきりがありません。家や美術館、自動車、飛行機などの乗り物も、いれものとしての箱といえるでしょう。現代美術の中でも、「箱」をテーマとした多くの作品が作られています。

展覧会には、伝統木工芸や現代造形作家、建築家、またグラフィックデザイナーや陶芸家など幅広い分野の作家の出品が予定されています。木のもつ豊かさや造形上の可能性、また、木という素材にとらわれない自由な発想、さらに、箱という概念への各自の思考が展開されるユニークな展覧会になることと思います。



木内 克「自刻像(生活)」1968年

.....美術館ニュース

北海道立函館美術館

9月26日～10月25日の期間は、「日本の抽象絵画 1910～1945」を開催します。20世紀の初めにヨーロッパでおこった抽象絵画は、大正、昭和初期の日本の画家に多大な影響を与えました。彼らは西洋から流入したさまざまな美術運動を摂取しながら、それぞれに試行錯誤を繰り返す中で、多様な抽象的世界を築きました。この展覧会は、これまで全国各地の美術館で進められてきた調査研究の集大成として、戦前の抽象絵画の全体像を展览しようとする試みです。萬鉄五郎、東郷青児、古賀春江、北脇昇、村井正誠など93作家の油彩、素描、版画、写真など185点の作品を紹介いたします。

10月31日～12月6日は「パスキンとエコール・ド・パリ」が開催されます。20世紀の初め、芸術の都において、自らの才能を開花させ、個性的な芸術を生み出した一群の画家たち、パスキン、キスリング、ローランサン、ユトリロなどの作品を、北海道近代美術館のコレクションにより紹介します。

また、1月5日～1月31日は「あそびの木箱 1992～93」と題して、自由な発想で制作された「木箱」約100点により、現代木工芸の現況を紹介。2月7日～2月28日は道立美術館4館の共同企画による「北海道・今日の美術」を、3月7日～3月28日には当館の所蔵品を中心と昭和期に活躍した函館ゆかりの作家を系統的に展览する「昭和の函館画壇」を開催いたします。



「URBAIN No.1」1936年
村井正誠
日本の抽象絵画1910～1945より

北海道立帯広美術館

当館の所蔵品をテーマごとにさまざまな角度から紹介するコレクション・ギャラリーでは、この秋、十勝ゆかりの美術家たちの代表的な作品を紹介する「十勝を描く－風土との対話」(9月20日～12月20日)を、続いて新春には、戦後から今日に至るポスターの代表作による「現代日本のポスター展」(1月5日～3月28日)を開催します。

一方、特別企画展を開催する主展示室では、「ロートレックとボナールのパリーフランス世紀末の版画とポスター」展(9月20日から11月8日)を開催します。19世紀末のパリは、ベル・エポック(良き時代)という華やかな時代を迎みました。大衆社会とジャーナリズムが飛躍的に発達する一方、カラー・リトグラフなどの新しい技法を活用するすぐれた美術家の登場は、雑誌の挿話やポスターを芸術の領域にまで高めました。本展はこれらの版画やポスターにより、当時の華やかな風俗や文化の一端を紹介します。

「あそびのオブジェ 世界のユーモア・カップ展」(1月14日～12月20日)では、世界の陶芸家やガラス作家が自由な発想で創作したカップ126点を紹介します。カップの形や用途にこだわらずさまざまに制作された愉快な表現世界をお楽しみください。

「版画藝術の饗宴 ケネス・タイラーと巨匠たち：1964～1992」(1月5日～2月28日)では、戦後、世界の版画藝術をリードしてきたアメリカの中でも代表的な版画工房として知られている、ケネス・タイラーの版画工房の足跡を、アーティストとの緊密な共同作業によって作られた作品約100点により概観します。続く「北海道・今日の美術」展(3月6日～28日)は、道立美術館の共同企画によるシリーズ展の3回目の展覧会です。



ホックニー カリビアン・ティー・タイム 1987年

.....美術館ニュース

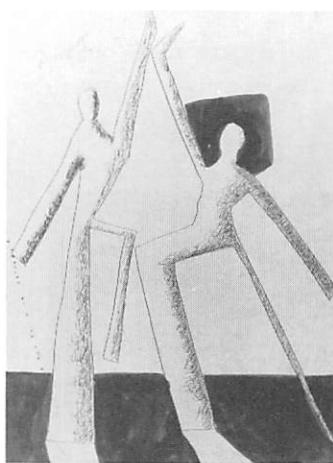
北海道立三岸好太郎美術館

開館15周年記念の特別展「三岸好太郎と三岸節子展－愛と芸術の軌跡」は好評のうちに先月終了しました。今年の秋の特別展は10月1日（木）から11月22日（日）まで、「ほとばしる感性－三岸好太郎の水彩・素描」を開催します。

10年あまりの短い画業の中で、三岸好太郎は多くの素描をこしています。美術学校などには通わず、独学で絵画を学んだ三岸ですが、彼が素描というものを大切に考えていたことが、春陽会賞受賞の年の大正14年に節子婦人に宛てた手紙の中で「やはり素描が非常に必要なです。いくら色彩家でも、美しきトーンを持っていない人、素描のできていない人はとてもだめだと思います。」と述べていることからもわかります。そして彼は、単なるアカデミックな形態描写にとどまらないきわめて自由な感性を持って、しかし造形的なフォルムを常に意識しながら数多くの素描を取り組みました。感興がわけば手近の紙に、また裏面にもその筆を走らせることもあり、彼の作風変遷をも反映しながら非常に多種多様な素描がこされています。

また用いた画材も多彩で、鉛筆、墨、コンテ、木炭、クレヨン、そして水彩やグワッシュなど、それぞれの特徴を生かしながら効果的な表現を見せてています。グワッシュでは、油彩と同様独特の色彩感覚を示し、重ね塗りによる微妙な色合もまた彼天性のものといえます。これらの作品は三岸の素描家としての独創的な資質を物語るものでしょう。

今回の展覧会では、当館の所蔵する作品に加え、館外の所蔵作品もあわせて展示し、約120点の水彩・素描により、三岸好太郎の自由な精神にあふれた造形の魅力を紹介します。



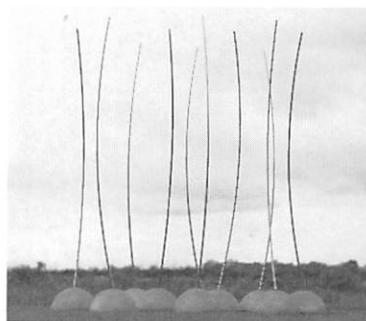
三岸好太郎「二人人物」1933年

財団法人札幌彫刻美術館

当館では、8月28日（金）から10月18日（日）まで「第6回北の彫刻展」と題し、北海道を活動の拠点とする彫刻家による作品展を行ないます。この展覧会は、開館以来札幌出身の彫刻家本郷新の遺志により、北海道の彫刻家の育成を目的に隔年で開催してきました。

「北の彫刻展」では、ひとつのテーマをもうけたり、特定の傾向を明確に打ち出すのではなく、多様な素材と形式を混在させた発表の場を提供してきました。それはあくまでも、出品作家の自由な創作活動を優先させることであり、第1回展から一環して北海道の現代彫刻をある意味で凝縮したかたちで紹介してきました。

出品は、秋山沙走武、阿部典英、板津邦夫、伊藤隆道、伊藤寿朗、岩下碩通、関沼淳一、小野寺紀子、神田比呂子、國松明日香、斎藤一明、坂垣道、高橋昭五郎、田村宏、中江紀洋、永野光一、二部黎、松隈康夫、丸山隆、山下嘉昭、山田吉泰、山本一也、山谷圭司、米坂ヒデノリの24作家、47点。出品作品は、展示室及び庭園に展示します。皆様のご来館をお待ちしています。



伊藤隆道「10本の狐・光」1991年



山田吉泰「風」92-4 1991年

情報コーナー

活発な協力会創立15周年を 記念しての動き

美術館招待事業

ひろく住民のみなさんに美術に関する関心を高めてもらうため、気軽に作品を楽しむ機会を提供しようということで、北海道新聞社・北海道立近代美術館の協力を得て、7月18日から8月2日まで応募による抽選で北海道立近代美術館に無料招待や割引入館を行いました。

開催展は特別展「フライデルフィア美術館展」と常設展「これくしょん・ぎゃらりい（パリの肖像）」で、特別展の招待入館者は692名・割引入館者は233名。常設展の招待入館者は491名・割引入館者は88名でした。

なお、招待事業の第2弾として朝日新聞社・北海道立近代美術館の協力を得て9月6日から9月20日まで、第1弾同様応募による無料招待を実施中です。

開催展は特別展「スウェーデンのガラス1900-1970」と「これくしょん・ぎゃらりい（北のイコノロジー）」です。

文化講演会

北海道新聞社の協力を得て、国際的に著名な講師を招き「北緯43度の芸術」と題して8月29日道新ホールで

会員拡充に会員の 皆さんのご協力を

当協力会が社団法人としてスタートした昭和54年度の会員数は個人会員273人、法人会員22社でした。その後13年を経過し平成3年度末では個人会員1,203人、法人会員101社と殆ど下降することなく増加をたどってきています。（別表参照）

年平均の伸びは個人会員で70人程度、法人会員では6社程度ということになりますが、15周年の節目に当る本年度は飛躍的な会員増加を期待しながら、会員のみなさん一人が新会員ひとりを紹介する運動を展開したいと考えています。

文化講演会を開催しました。

講師は、苫小牧市で開催された「キュレィターズ・セミナー'92」の講師として来道されたヴェルナー・シュマーレンバッハ氏（前ノルトライン・ウエストファーレン美術館長）とアレクサンダー・クレー氏（20世紀を代表する画家の一人バウエル・クレーの孫）でした。

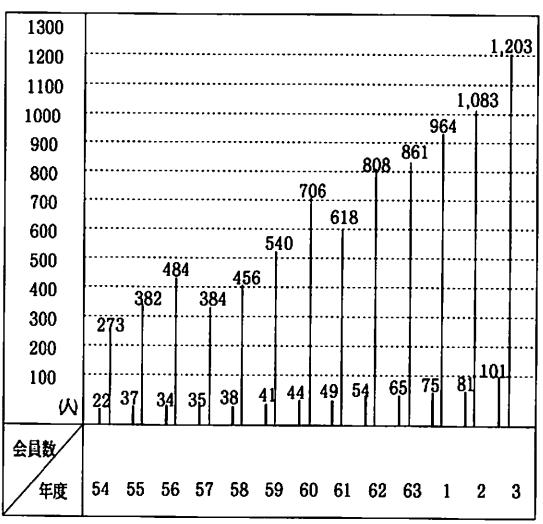
ボランティア活動記録作成

協力会発足以来5年ごとにボランティアの活動記録を作成し、貴重な活動の軌跡として残してきていますが、本年は第3回の5年目に当たりますのでボランティア部員が鋭意その作成に取り組んでいます。

ミュージアム・フォーラム

北海道立近代美術館開館15周年を記念し、地域社会における美術館の役割と展望についてのフォーラムを11月7日講堂において開催しますが、協力会もこれに共催しパネリストとして相馬ボランティア部長が参加する予定になっています。

普通会員拡充状況一覧



情報コーナー

楽しく学ぶ美術の世界 ミュージアム・スクール92

本年度も近代美術館の夏のイベント「ミュージアム・スクール92」が7月28日から29日まで（小学1～3年生対象）、7月31日から8月1日まで（小学4～6年生対象）開催されました。

展覧会を見たり、ワークショップで作品を作ったりする、この子どももと親のためのサマー・スクールは本年で2回目になりますが、当会も共催し41名のボランティア部員が事前の準備に何回も会合を持ち、オリエンテーション、アートレッスン、シアター・コンサート、ワークショップ、ミュージアムサロン等の役目を担当し活発な活動をしました。

今回の参加は低学年38組80人、高学年36組76人、ミュージアム・シアターのみの参加者は約250人でしたが、ボランティアの皆さんのお活動は参加されたお母さんたちからも大へん好評でした。



第10回会員の集いホテルで開催

会員の集いは例年12月にボランティア部員の協力を得ながら近代美術館で実施していましたが、いつもボランティアの方たちにご苦労をかけるのは心苦しいということもあり、あまり手数のかからないホテルで暖かいうちに実施してみてはということで企画されました。

出欠回答の出足が芳しくなく心配しましたが、131人の参加を得て8月21日ホテル・アカシヤで開催しました。

催しとして行われた、元北海道大学教授、堀 淳一先生の講演「地図の美しさ」に参加者は今まで気が付かなかった地図の美しさに耳を傾けました。

続いて筝の調べに包まれたパーティ会場へ。沢山の御馳走をいただきながら和やかなひとときを過ごし、帰りには協力会オリジナル商品の「レターセット」を記念品として参加の皆さんに贈呈しました。



終盤に入った婦人美術講座

本年度の婦人美術講座は応募者265人のなかから抽選で選ばれた50人が4月16日より受講を開始しましたが、みなさん懸命に勉強を続けております。

9月3日現在の皆勤者は12人ですが、残りは最終講座の9月24日まで3講座。みなさんが8割以上の出席で次の養成研修に進まれることが期待されています。



.....情報コーナー

❖❖❖❖❖ 魅力いっぱい！秋の美術研修旅行 ❖❖❖❖

海外美術研修旅行

第13回目となった海外美術研修旅行は、本年は少し時間的余裕をもちらながらアムステルダム、ユトレヒト、ハーグ、アントワープ、ブルージュ、ブリュッセルなどの都市を巡る「オランダ・ベルギーの風景と美術館めぐり」を企画しました。

この旅行は例年応募が多く希望しても参加できなかつた方がいたことなどから、本年は当初から2班編成で募集をしましたが、第1班、第2班とも定員以上の応募状況で10月20日と11月3日、それぞれ12日間の日程で出発することになっています。

国内美術研修旅行

本年第10回目になる国内美術研修旅行は、神戸を中心とし「六甲山麓美術の旅」を企画しました。



●片道はがき

「婦人美術講座もそうであったけど、美術館招待でも多かったねえ」

「往復はがきのことかい」

「そう。往復はがきでお願いしますと募集要項に書いてあるのに、返信用のないのが随分あったねえ。それと、返信はがきに自分の宛先を書いてないもの」

「つい、うっかりということだろうけど……。われわれも気をつけないではならないなあ」

●原因不明

「今年の会員のつどいは例年より参加者が少なかったねえ」

「会員総数の10%程度しか集まらないのは、やっぱり検討の余地があるということかもしれない」

「会費、場所、時期、催し物の企画など、考えなければならない要素はいろいろあるけど……」

「それにしても何が参加を少なくしている原因なのかなあ」

●簡易包装

「売店では簡易包装についてお客様の理解をお願いしているが、資源保護やゴミを出さないことからも必要なことだね」

神戸2泊、有馬温泉1泊で神戸市立博物館、兵庫県立美術館、香雪美術館、白鶴美術館などのほか神戸ポートアイランドや異人街・六高山高山植物園を見学することになっています。

応募は9月はじめで定員には達していませんが、催行人員の応募を期待し9月29日から3泊4日の旅行を予定しています。

道内美術研修旅行

手軽に楽しめるものがあつてもいいのではないかということで、本年初めて企画した研修旅行です。

9月9日・10日1泊2日の旅行に25人が参加し、道立帯広美術館や宿泊して楽しめる然別湖ホテル福原のミネルバ美術館、今年オープンした坂本直行美術館のほか帯広百年記念館などを見学しました。

「問題は、抵抗のない簡易包装とはどの程度のことかということだよ」

「今、フードセンターなどのセルフサービスは普通になっているが、あれは革命的な変革だった。思い切ってあれに似たようなことをやらなければ、抜本的な解決にはつながらないかもしれないね」

●P R不足?

「美術館協力会って知らない人がいるんですよ！」

「驚くことはないよ。残念ながらそれがごく普通なんじゃないか」

「早い話が我々だって、諸々ある団体をどれほど知っているか。そして、その団体関係の人たちが、どれだけ知られていないことを嘆いているか」

「しかし、他はどうあろうと当会は知ってもらわなくてはならないね。やっぱりP R不足ということになるのかな」

●手軽な会費の支払

「依然、会費の収め方についての照会が後をたたないねえ」

「美術展を観覧においてになったときでも2階の売店で収めていただければ、会員証はその場で発行できるしこれが一番手軽な方法ですとお答えしているんだけど」

「1年に1回のことだからねえ。収める立場にしてみれば忘れてしまうのかもしれないなあ」

「新しく会員になる人も売店で入会を申し込むのが一番手軽だよね」

情報コーナー

新役員の紹介（任期 平成4年6月～6年6月）

本年度は役員の改選期で、総会及び理事会において新しい役員が次のとおり選任されました。

退任された理事は山本 武、杉野目かつ子の両氏、監事は山川 力氏です。替わって新しい理事には木村和男、前田利明の両氏が、監事には岩田 泰氏が就任しました。

また、専務理事であった鈴木英二氏は副会長に、後任には佐藤直一氏が就任しました。

なお、退任された山本 武、山川 力両氏は特別会員になられました。（杉野目氏は既に特別会員になっております）

役職名	氏名	就任年月	担当職務	勤務の別	報酬	職業	備考
会長	武井 正直	4/6	業務総理、代表	非常勤	なし	銀行頭取	61/6
副会長	秋山 喜代	"	会長補佐	"	"	会社会長	54/8
副会長	木路毛五郎	"	会長補佐	"	"	美術評論家	54/8
副会長	鈴木 英二	"	会長補佐	"	"	会社顧問	61/6
専務	佐藤 直一	"	業務全般	"	"	団体参与	2/6
理事	有坂 紗子	"	特別事業	"	"	団体役員	54/8
"	阿部 三恵	"	広報部長、事業	"	"	団体役員	54/8
"	今井 リツ	"	特別事業	"	"	団体役員	63/6
"	伊坂 重孝	"		"	"	会社社長	63/6
"	浦田 久	"	事業、広報	"	"	団体役員	2/6
"	大萱生 明	"	総務、幹事会、V、旭川美術館	"	"	団体役員	2/6
"	気境 公男	"	特別事業	"	"	団体役員	54/8
"	木内 和博	"	旭川美術館	"	"	工芸館長	57/6
"	木村 和男	"	事業、広報	"	"	会社社長	4/6
"	小杉八千代	"	事業	"	"	団体役員	54/8
"	斎藤 一郎	"	旭川美術館	"	"	会社社長	2/6
"	繁富 文承	"	事業	"	"	会社社長	59/6
"	関川 節子	"	事業部長、V	"	"	団体役員	54/8
"	相馬 久子	"	V部長、事業	"	"	団体役員	2/6
"	谷 貴子	"	特別事業部長	"	"	団体役員	54/8
"	高橋 英雄	"		"	"	団体役員	57/6
"	堂垣内香千枝	"		"	"	団体役員	59/6
"	馬場 昭	"	旭川美術館部長、総務	"	"	会社社長	57/6
"	平瀬 徹也	"		"	"	会社社長	59/6
"	前田 利明	"	総務、事業	"	"	団体役員	4/6
"	和田 王三	"	総務	"	"	弁護士	54/8
監事	中村 松寿	"		"	"	団体役員	54/8
"	岩田 泰	"		"	"	会社社長	4/6

新入会員の紹介

(平成4年1月～6月)

●法人会員

4月会員

北海道女子短期大学

●個人会員

1月会員

田野中秋生 札幌市

青木トシ子 帯広市

鈴木 康子 "

安井真佐子 "

清水 兼夫 札幌市

谷山 幸弘 札幌市

小林 幸子 "

2月会員

三上まゆみ 札幌市

篠原 泰子 "

関谷 尚子 江別市

白樺 雅子 札幌市

田中 和子 "

藤田美智子 小樽市

3月会員

北 文武 札幌市

熊野 照男 "

竹道富美子 札幌市

宮窪 敦子 "

中西 翠 広島町

橋井 茂子 札幌市

長尾寧多子 旭川市

吉田 明 札幌市

森藤 源一 "

吉田 幸子 "

木村 和男 "

4月会員

石井 啓江 俱知安町

横山 ユリ 札幌市

酒井 信子 "

瀧口 美智子 "

向野 三子 "

上田 大輔 "

津谷恵美子 "

小路 弘子 "

小森三和子 "

高林 京子 "

米子 和佳 "

瀧野 洋子 石狩町

皆原 國枝 札幌市

工藤とも子 "

常川ひろ子 "

蒲原真理子 "

中澤 葉子 "

鎌 紀子 "

藤枝由紀子 "

小澤 紀子 "

福島裕見子 "

中野美智子 "

5月会員

木沢 紀子 札幌市

上西 康江 旭川市

平松 秀雄 札幌市

金子 元子 "

菅原 直美 "

落合 千恵 "

小森山恵次 "

星 朱美 "

林 忠博 "

西村 一代 "

塙田 和男 "

野坂久美子 札幌市

西川千恵子 "

猪股 菊実 "

島 りつ子 "

塙田 京子 "

渡田美代子 "

波辺 幸子 千歳市

6月会員

高田 幸子 北村

鈴木由美子 札幌市

角田 伸子 "

松本 道子 石狩町

綿 球子 札幌市

天元いつ子 広島町

若林 鑑子 札幌市

阿部 冷子 帯広市

堀 みさを 札幌市

松村 静江 広島町

川端 雅子 札幌市

吉田 房子 "

岡本 育子 "

ESSAY

憩う



中野北溟

美術館の前庭、その夏の時季。樹々に開まれた芝の緑、縫うようにくねる小径、それが彫像の一つひとつと、とても仲よく手を組んで、快い時間を生み出しているではありませんか。いつの間にか、もうひとつのところに誘い込まれそう。マルヘンの情緒が私の中を立ち巡るのです。いっそのこと、あの東西の門扉を鎖してしまった。南の門が運ぶ人々の足音にはなおもふくらむ想いが、きっと。
二つめは、ソファのある二階の広いロビー。深く腰をうずめ静かに目をつぶれば、この上なく優しく、更に温かなものが私の内を吹き抜け、また還ってくるのです。それは満々と湛えられた大きな風なのです。そして、眺められる件の前庭が、放されたこのフロアと重なり合って、不思議にも、私の視覚を聴覚に変え、言いしれぬ独特の音律で私を揺さぶるのであります。たまらぬ想いとは、きっと、このことかも知れません。

絵画との出合



小林千代子

もう二十数年前、子供達が就学したのを機に、PTAの絵画教室に、足をふみ入れたのが、油絵との始めての出会いでした。

当時、東京芸大の学生さんを先生に迎え、まったくのシロウトの私達を七年間、「良い絵を見なさい。」「心に感じた（見えた）ものを筆先に出しなさい。」と指導して頂きました。

色に色を重ねたり、拭き取った後のキャンバスに、思いがけず美しい彩を見つけたり、重い画材を背おい奥多摩の秋を眺めたものでした。

上野の美術館へも通ったものです。年寄りの病気や、夫の転勤等、絵筆を持つ暇のなかつた空白。

そして今、道立美術館の近くに住み、いつでも良い絵と接する幸せに、恵まれました。

デッサンを初步からやりたい、ボランティアが出来る程、色々な事を学びたい、と夢を描いている、このごろなのです。

旅と健康



向井遥子

3年前、姉の病気が進行し、妹と一緒に過ごす時間が増えて、悲しい気持ちで東京より戻りましたが、その後姉は奇跡的に健康を取り戻し、感謝の気持ちで一杯でした。

そんなとき旅を思い立ち、6月に3人で参加しました。毎日が博物館の中に居る様で、圧倒されました。

ヨーロッパの地よりも、強く感じられたボンペイの遺跡、城壁の上の中世の村や町、人間の興亡の歴史を、他のヨーロッパの地よりも、強く感じられ、又、その中にある世界一小さな共和国、「サンマリノ」の自給自足

せっせと一時間三十分もかかる、上野の美術館へも通ったものです。

年寄りの病気や、夫の転勤等、絵筆を持つ暇のなかつた空白。

そして今、道立美術館の近くに住み、いつでも良い絵と接する幸せに、恵まれました。

食事制限のある姉に合わせて、バスター（少なめ）、バスターと繰り返し、良くなき歩き、来年は人類発生の地でもと、世界史を読み始めました。

自分も好き——幼い娘の言葉にビックリし、感心した。素敵な言葉だ。

「自分も好き！」

としめくくった。

自分も好き——幼い娘の言葉にビックリし、感心した。素敵な言葉だ。

子どもたちみんながたのしくのびのび遊ぶ毎日から生まれた言葉だ。10年後、20年後であってもその時の“自分が好き”と思える大人であつてほしいと思う。

「自分も好き！」



石田純子

長女は4才。今春幼稚園に入り、3ヶ月がたつ。

幼稚園ではもちろんのこと帰宅後、家でも友だちと遊んだり、遊びに行ったりという毎日が続いている。遊びほうけて夜ふとんに入ると、

「あっちゃんねえ、Sちゃん」とMちゃんとTちゃんが好き。それからKちゃんもAちゃんも好き。Rくん、Tくん、Kくんも好き——幼稚園のお友だちみんな好き、「その後先

生、家族の名前を言うと最後に、

道産子岩橋英遠画伯の大絵巻

風雪に耐える北海道の原風景

9月発売開始



1	2
—	—
3	4
10	11
17	18
24	25
31	6
12	13
19	20
26	27
14	15
21	22
28	29
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
2	3
9	10
16	17
23	24
30	31
—	—
4	5
11	12
18	19
25	26
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
5	6
12	13
19	20
26	27
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
6	7
13	14
20	21
27	28
4	5
11	12
18	19
25	26
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
7	8
14	15
21	22
28	29
5	6
12	13
19	20
26	27
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
9	10
16	17
23	24
30	31
—	—
10	11
17	18
24	25
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
11	12
18	19
25	26
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
12	13
19	20
26	27
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
13	14
20	21
27	28
4	5
11	12
18	19
25	26
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
14	15
21	22
28	29
5	6
12	13
19	20
26	27
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
15	16
22	23
29	30
—	—
16	17
23	24
30	31
—	—
17	18
24	25
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
18	19
25	26
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
19	20
26	27
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
20	21
27	28
4	5
11	12
18	19
25	26
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
21	22
28	29
5	6
12	13
19	20
26	27
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
22	23
29	30
—	—
23	24
30	31
—	—
24	25
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
25	26
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
26	27
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
27	28
4	5
11	12
18	19
25	26
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
28	29
5	6
12	13
19	20
26	27
1	2
8	9
15	16
22	23
29	30
—	—
29	30
—	—
30	31
—	—



■B3版／壁かけタイプ 8枚づり・解説つき

■定価 1,030円(税込) ■9月発売

■100倍以上申込は1部824円(税込)、名入れなど別途申し受けます

■限定販売

北海道立美術館の売店でお求めください。

100部以上ご購入の場合は、名入れなどを含めて直接下記にお申ください。

(名入れの場合はカレンダー代金のほか5,000円を別に申し受けます。)

札幌市中央区北1条西17丁目 北海道立近代美術館内

社団法人 北海道美術館協力会 電話 644-4025